

自見先生からのご寄稿いただきました

参議院議員 自見はなこ 活動報告

「国民医療の発展に向けて」



中川俊男委員長をはじめ、日本医師連盟の先生方におかれましては、平素より大変お世話になっております。またこの度のワクチン接種や発熱外来、重症者の治療を含む医療/検査提供体制、保健所支援など、さまざま

る体制整備も喫緊の課題です。全世代へのワクチン接種がある一定程度まで行き渡り、インフルエンザの場合というタミフルのような経口治療薬が世に出るまでには、まだ数カ月がかかる

はしごを外された感覚だと、たくさんのお声をいただいております。現在の状況は大変残念でならないと発言するともに、国から供給されたワクチンがスムーズに接種されるには、とくに都道府県ごとの調整が必要となることから、藤井比早之内閣

AbemaTVのインタビュー記事の紹介とQRコード。内容は、自見はなこ議員が医師らと対談した様子について。

今回の新たにデルタ株の流行という事態を迎えています。デルタ株は、米CDCの報告書で水痘なみの感染力をもつとされており、感染拡大地域では、中等症の患者も入院できない事態が起きておりますが、ブレイクスルー感染による医療従事者の感染も増えており、医療現場

新型コロナに係る診療報酬の特例も九月末に区切りを迎えますが、引き続きコロナ対応や非コロナ対応部分での医療機関の安定的な運営がはかられるよう全力を尽くして参ります。このような非常時こそ、先生方のお声を国に届ける役割の重要性を痛感しております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。

この質問がきっかけで、八月からは都道府県別の接種率が公表されることとなり、基礎自治体ごとのワクチンの偏在について適切に把握し、都道府県が調整を担うことで円滑な接種につなげることができるようになりました。

とめた、わが国における難聴対策の指針である「ジャパン・ヒアリング・ビジョン」について関係省庁からフォローアップ状況を聴取するとともに、議連事務局次長の宮路拓馬衆議院議員より、新生児期・小児期の難聴対策に焦点を当てて二〇二〇年に議論を重ねた小委員会の報告を、神戸市立医療センター中央市民病院総合聴覚センター長内藤泰先生に「聴覚の診療と脳機能・神戸中央市民病院総合聴覚センターの取り組み」をテーマにご講演いただきました。

私の理解は、八月頭より災害時でいうところの「避難指示」の状態、今まさに増水して浸水している最中なのであり、今ダムを作れとか、あるいは、土

設内感染にさらに警戒する必要があります。加えて、現在の急速な感染拡大に

迅速なワクチン接種のため、国の支援策等も活用しつつ体制を整えた医療機関も多数あり、七月七日、内閣官房に「こども庁」創設に向けた検討チームである「こども政策の推進に係る作業部会」が設置されました。

検査および聴覚障害児支援の推進予算が二〇一九年度の四千九百万円から二〇二〇年度は六億円と、実に十二倍以上になり、二〇二二年度も同額が計上されたほか、高齢者の適切な補聴器利用に向けた調査研究事業の実施や、手話通訳等の体制整備の充実など、わが国の難聴対策に飛躍的な進展がみられました。



7月9日 オリパラ関係者のPCR検査や選手のドーピング検査等を担うLSIメディエンス中央総合ラボラトリー（東京都板橋区）を、下村博文自民党政務調査会長、三ツ林裕巳内閣府副大臣とともに視察しました

医療機関が逼迫する状況で、今までのような中等症を含めた入院・宿泊療養による対応から、今後は、とくに軽症の若者などは可能な限り在宅での対応



8月5日 参議院厚生労働委員会

14回総会

六月八日、難聴対策推進議員連盟（会長：石原伸晃衆議院議員、事務局長：自見はなこ）の第十三回総会を開催いたしました。二〇一九年十二月にとりま



参議院厚生労働委員会にてワクチンの対供給接種率について質問

参議院厚生労働委員会にてワクチンの対供給接種率について質問

参議院厚生労働委員会にてワクチンの対供給接種率について質問

